

【①中東の歴史的街区、歴史の蓄積から学ぶ】 深見奈緒子（日本学術振興会カイロ研究室センター長）

私は、イスラーム、特に中東、インド、中央アジアなどのイスラーム建築と都市の歴史を研究しています。

今日は、中東の歴史的街区を保全するために、今までの歴史的蓄積から学べる点についてお話ししたいと思います。

歴史的都市カイロの魅力は、歴史的建造物がよく残っていることに加えて、複雑な街路網が、建物の新陳代謝があっても概ねその形を維持しているところにあります。

この地図は、赤い部分がエジプト誌に記載された地図で、黒い部分がニコラスワーナーの地図ですが、多くの部分が一致しています。



この写真は、スークシラーハ通りのバイトヤカン前の光景と、イルゲイ・ユーズフィーモスクを見たところで、ともに 19 世紀末の写真です。

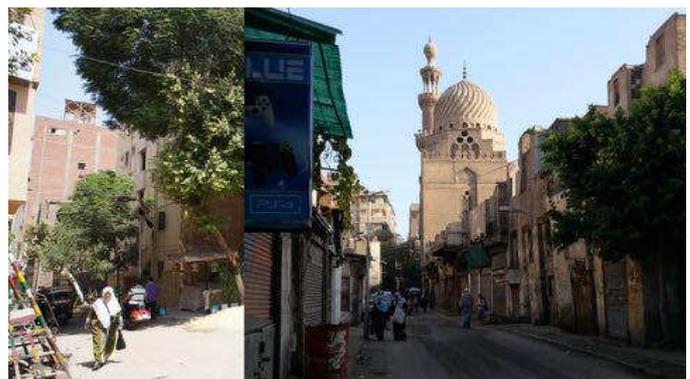
通りの太さが一定でなく、そこかしこにポケットのような空間を作っていることがわかんと思います。

また、ファサードが出窓等を用いて、変化の中に統一を作り出していることもその魅力の一つです。



今では、高い建物など変化はありますが、道はそのままです。

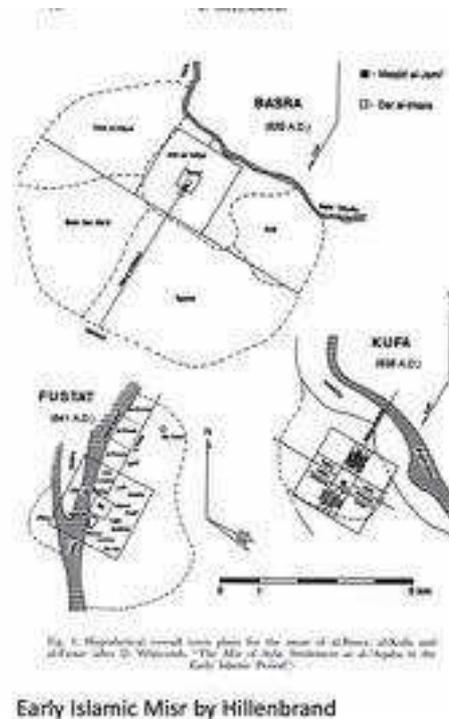
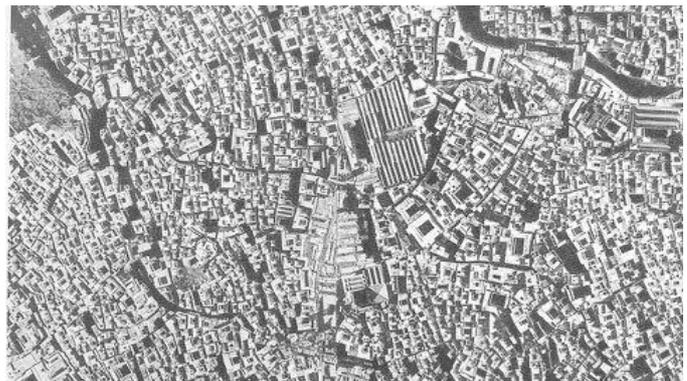
また、歴史的な建物は維持されています。



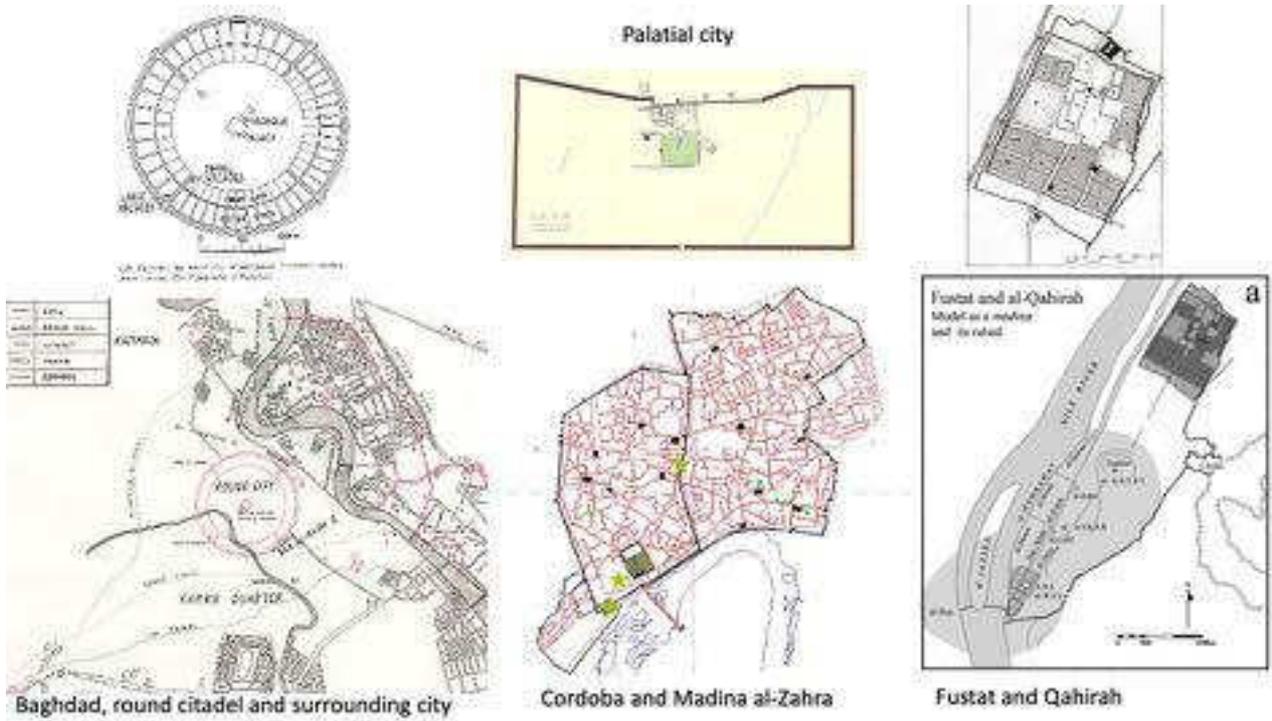
サラ教授が関与したプロジェクトでは、昔の雰囲気が戻ってきています。また、サビール・クッターブコーリアーンでは修復によって随分美しくなりました。全てを昔に戻すことは無謀なことですが、このような遺産を維持しながら現代生活に合わせてさらに魅力的な街にしていく方法を考えることが、私達の仕事だと思っています。



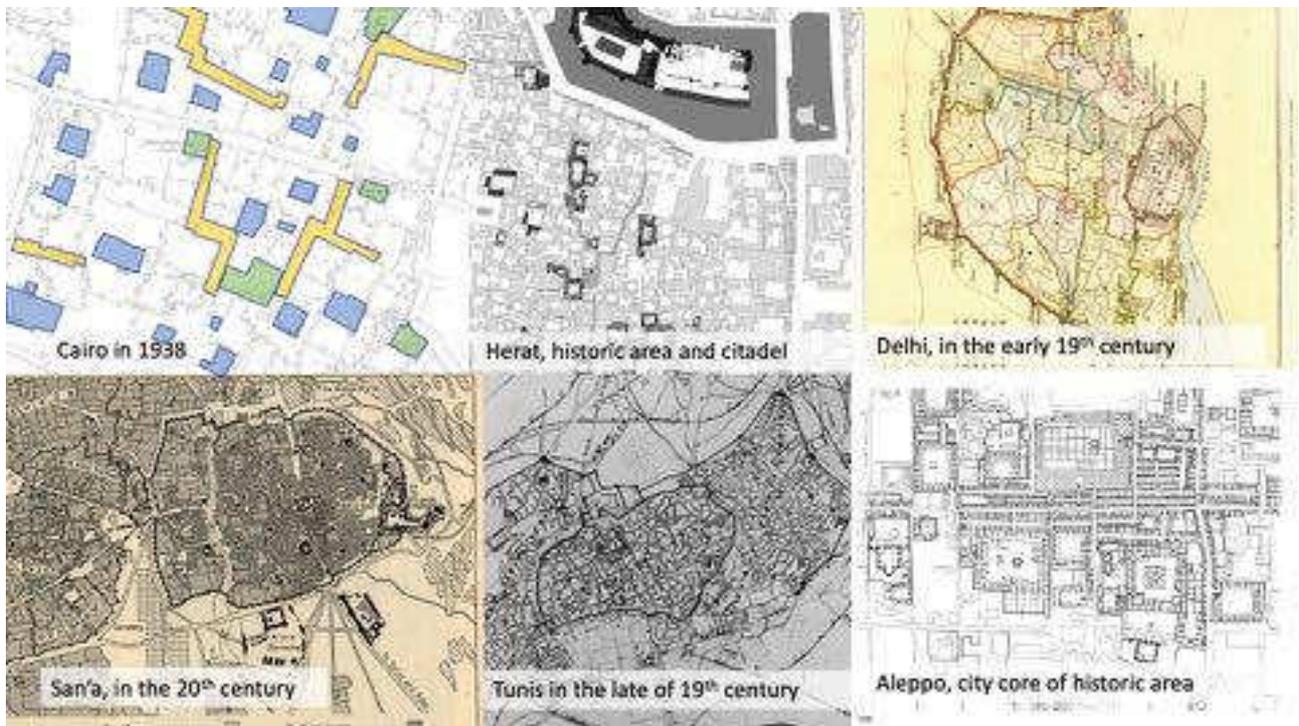
エジプト、アラブの人々に、東方の島国日本からきた私が、イスラーム建築の魅力をお話するのは場違いかもしれません。今回のお話では、どのようにしてこうした魅力的な都市が作られ、それがどのように維持されてきたのかをお話することで、今後の歴史都市保全政策のヒントになればと考えています。



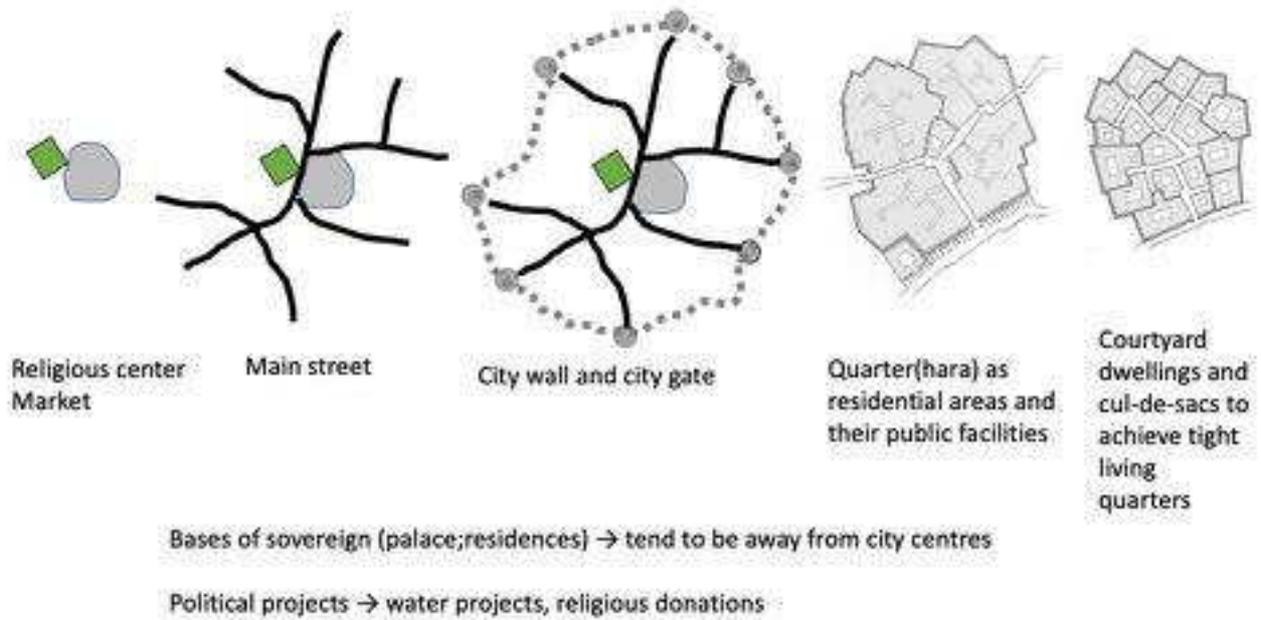
どのようにしてこうした形態が生まれてきたかという点をお話します。初期イスラーム時代には、征服都市すなわち既存の都市をアラブ軍が征服してそのまま用いる場合と軍営都市があります。ダマスカスやアレppoのようなグリッド都市や、アフラシアブやレイのような非定型都市もありました。ところが、アラブ軍が作った軍営都市は整形な都市が多かったようです。



10世紀頃までは、バグダード、アル・カーヒラ、マディーナットザフラーなどの宮殿都市は、一般市民の住む市街とは別に、統治機能を担い、帝国の表象となりました。これらとは別に一般市民が住む非定型な都市が共存していました。



11世紀以後になるとここにあげたような非定型都市の傾向が強まります。この状況は20世紀初頭にいたるまで持続し、継続性という歴史的蓄積がこのような一見有機的にみえる都市を熟成させたこととなります。



旧市街を読み解くための簡便な観点として、以下の5つを指摘したいと思います。

- ①宗教的中心と市場
- ②主要街路
- ③市門と市壁
- ④居住区域としての街区とその公共施設
- ⑤稠密居住を達成するための中庭住居と袋小路

それに加えて、為政者の拠点が中心から離れたところにあり、彼らは水事業や宗教的寄進をすることによって都市に間接的に関わってきたという点が挙げられます。

安定性を維持するための構造とは、乾燥地域という地理的環境と中世から近世という歴史的環境を基盤に育ったものです。そこでは、ムスリムの統治者の元でイスラーム法による、土地所有システム、フシステムが機能していて、モスクやマドラサなどの宗教施設とハンマームやウィカーラなどの世俗施設を同梱し、拠点的な開発がなされました。

それを可能としたのは都市の支配者が遊牧系の出自であって、ハーラや工人集団、スーフィーコミュニティなどに属する街区住民の自治が図られていたからではないでしょうか？

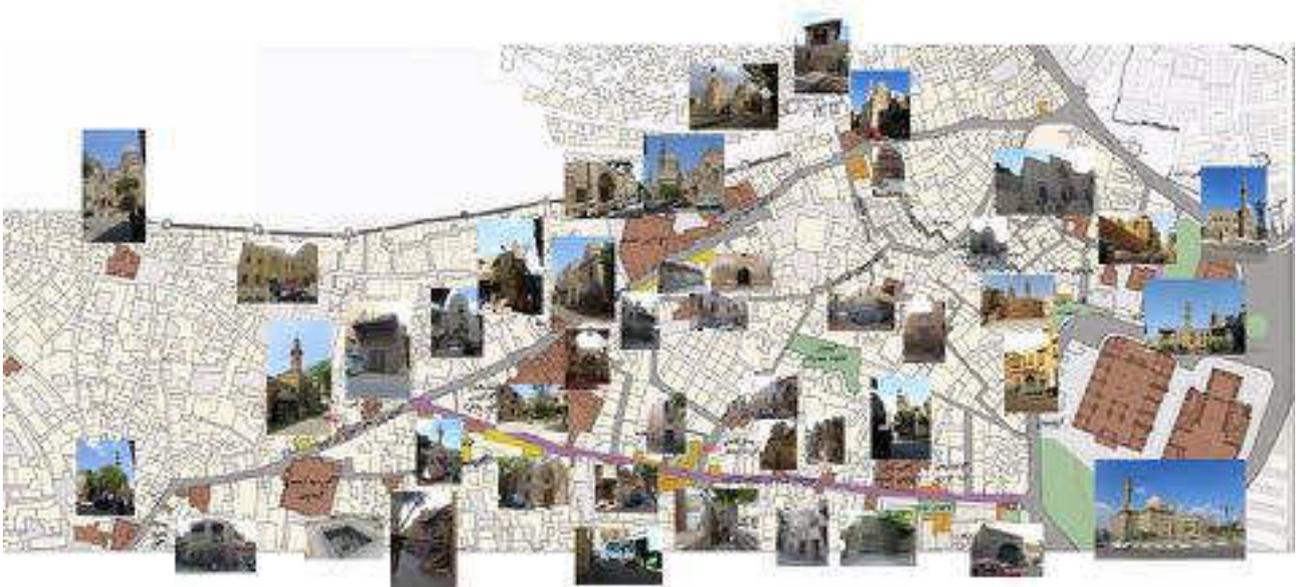
安定性を維持するための構造

- ◆乾燥地域という地理的環境
- ◆中世から近世という歴史的環境
- イスラーム法
 - ▶土地所有システム
 - ・不動産は神の所有、使用権が個人に属する
 - ・相続によって均等分割、土地使用権と建物使用権は別
 - ・細分化する所有
 - ▶ワクフシステム
 - ・公的建築物を寄捨によって維持
 - ・所有権の移動を停止する
 - ・相続による分割を防ぐ
- 宗教施設とワクフ財を同梱した都市の拠点開発
- ✓都市の支配者が遊牧系の出自
街区住民の自治

Structures to maintain the stability of the city

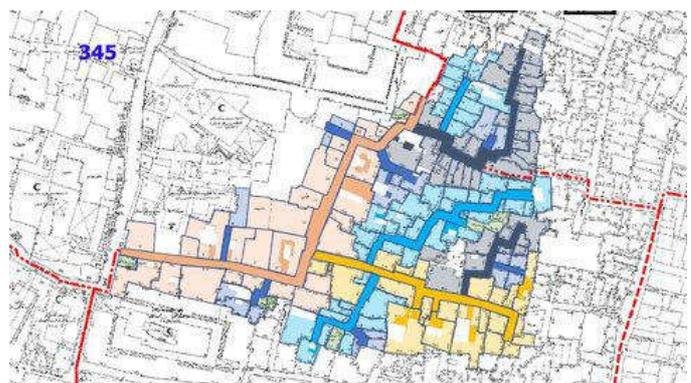
- ◆The geographical environment of the arid region
- ◆The historical environment of the medieval and early modern periods
- Islamic law
 - ▶ Land ownership system
 - ・ Real estate is owned by God, usufruct belongs to the individual
 - ・ Equal division by inheritance, land use rights separate from building use rights
 - ・ Subdivision of ownership
 - ▶ Waqf system
 - ・ Public buildings are maintained by donations
 - ・ Stop the transfer of ownership
 - ・ Prevent division by inheritance
- Development of urban centers with religious buildings and waqf goods
- ✓ Nomadic origin of the ruler of the city
Autonomy of the inhabitants of the city

先ほども申しましたように、全てを過去に戻したいというわけではありません。過去の文明が築いた遺産を、できるだけ活用しながら、その利点を次世代に伝えていくことが、重要です。と同時に、今後連続講義で話に登りますが、過去の文明が築いた遺産をきちんと管理運営することによる経済効果も見込まれます。



今までお話したシステムの中で、ワクフシステムにおける宗教建築と世俗建築をつなげて考え、そこから上がる収益を地域維持に使い、公共の誰もがアクセスできる施設を充実させるという点は大きい利用できる側面です。これは、ダルブ・アフマルの歴史的建造物をプロットしたのですが、こうした建造物が相互に関係性を持ちながら、住民のサービス、あるいは旧市街観光に役立てていくシナリオが求められています。

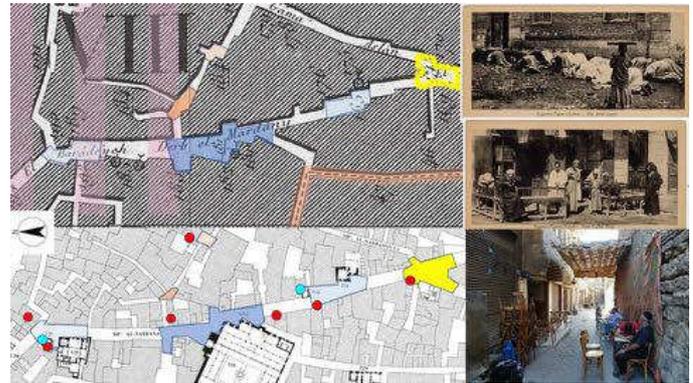
もう一つ、快適な居住環境を維持するためのコミュニティのための街区（ハーラ）や袋小路などは、今後の歴史都市保全に役立つ点ではないかと思います。これはガマレイヤの大きな袋小路を、1938年の地図に落としたものですが、袋小路の中にも小さな塊があることがわかります。



袋小路だけではなく、通り抜け街路にもコミュニティがあります。右のナポレオンの地図に表された街路名を、中央の1938年の地図にたどることができます。中央の地図の白抜き部分は1938年の地図に両側の道路番地が記入してあるものです。中央地図の真ん中下の白抜き部分は、イブラヒム・パシャ・ヤカンの住宅ですが、こうした広大な住宅はプライベートな部分だけではなく、パブリックな役割をも果たしていました。それをまさに実行しているのは、左のアラー教授のバイト・ヤカンとすることができるでしょう。



細かな点になりますが、街路の歪みや歴史的建築の凹凸によって生じる小さな広場も、未来への活用性を秘めているように思います。こうした小さな広場は、人々の集まるスペースになって、今でもアフワや金曜礼拝などに使われることもあります。



最後に、歴史的カイロには、大きな問題も山積しています。自動車交通、建物高さ、ゴミ問題、安全性の確保、インフラの整備、貧困居住区などなど。こうした問題点を解決しながら、世界に誇れる歴史都市カイロの遺産とともに居住する道筋を作っていけることを希望します。

